

編集にあたって



脊椎は、人体の支柱であるとともに、中枢・末梢神経を内包し保護するという重要な役割を担っています。必然的に、脊椎疾患の多くの症例では様々な神経症状を伴います。神経障害の原因となる病態を的確に分析し、適切な対処法を選択することは、脊椎・脊髄疾患診療の上で極めて重要です。

近年、脊椎・脊髄病変の診断・治療に関わる手技・テクノロジーには、顕著な進歩がみられています。MRI等の画像診断法の進歩は、神経組織の形態的異常のみならず、機能的側面の評価も可能としています。治療面においては、神経障害性疼痛に対する新規薬剤の登場によって、従来に比べ薬物療法の幅が広がったといえます。また、機能的電気刺激やロボットなどの応用により、積極的に神経機能の回復を目指す、ニューロリハビリテーションという新しい概念が導入されています。さらに、脊椎・脊髄疾患の慢性症例には、単に神経障害だけでなく、心理・社会的要因が関与していることが指摘されており、その対策としての集学的治療システムが整備されつつあります。

一方、中枢・末梢神経に関連する基礎的研究、そしてトランスレーショナル・リサーチにおいても、目覚ましい成果がみられています。なかでも脊髄損傷に対する神経再生医療に関する研究は急速な発展をみせており、臨床応用の一手手前まで来ているといっても過言ではありません。

本書は、まず日常の脊椎・脊髄疾患診療における神経学的診断の「手引き書」としての役割を果たすこと、そして同時に、最近の脊髄や神経に関する研究の動向を読み取る「情報誌」としての機能を持たせることを念頭に企画しました。

第1章：脊椎・脊髄疾患の神経学、第2章：脊椎・脊髄病変の診断の進歩、第3章：脊椎・脊髄疾患と鑑別すべき神経・精神疾患、第4章：脊椎・脊髄疾患の治療法の進歩、第5章：脊髄再生医療の最前線の各章の項目について、それぞれの分野に造詣が深く、臨床・基礎研究の第一線で活躍しておられる先生方にご執筆をお願いしました。また、監修の労を日本脊椎脊髄病学会理事長の田口敏彦先生（山口大学副学長）にお執りいただきました。

本書は、脊椎・脊髄疾患にまつわるニューロサイエンスに関して、様々な角度から焦点をあてたユニークかつ up-to-date な1冊になったと思います。ぜひ座右に置いて、日常の診療や知識のブラッシュ・アップにお役立ていただければ幸いです。

2017年4月

札幌医科大学整形外科
山下 敏彦